

大学等名：岐阜工業高等専門学校

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・テーマⅡ（学修成果の可視化）複合型

高専での教育課程科目の全てに対して半期に1回以上のアクティブ・ラーニング（AL）を取り入れ、非教育課程活動と教育課程学修でのALの成果を、実践技術単位制度により可視化する。モデルコアカリキュラムの教育の質保証を意識した教員目線のコンテンツと、学生目線の学習補助コンテンツの両者のサーバへの集約と配信、教室のICT環境改善により、能動的な教育改善と学修成果の可視化を推進する。

高専教育のアクティブ・ラーニングへの転換と学修成果の可視化・定量化による見える化

①これまで：実験実習系科目でのALの活用と、もの作りリテラシー教育等のアウトリーチ活動への展開を進め、地域連携等による高専創設50年にわたる工学教育分野での成果を発信してきた。

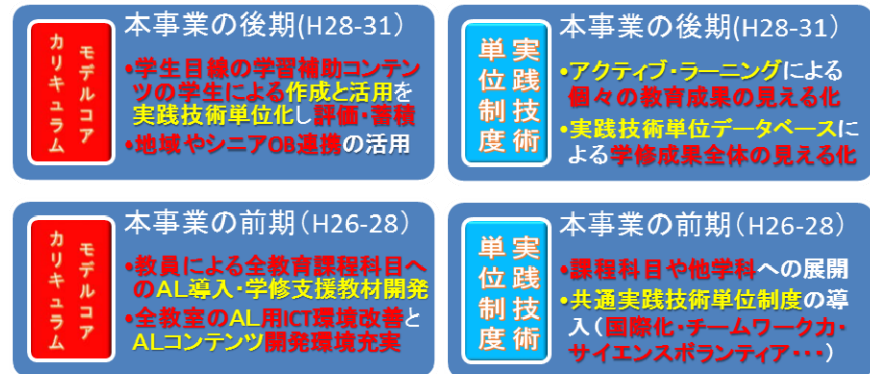


電気情報工学科では実践技術単位制度により、非教育課程活動の学修成果の可視化を推進し、その教育効果を分析・発信してきた。

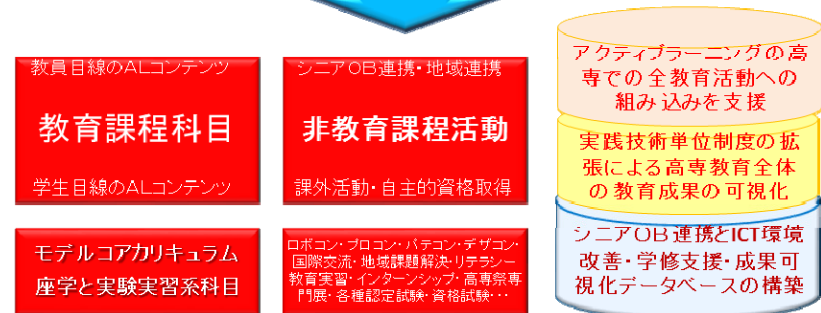
②本取組にて加速される教育改革と事業成果：ALを全ての教育課程へ展開・拡充することにより、社会や経済環境の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。また、「実践技術単位制度」を全校展開し、高専での教育課程学修と非教育課程活動の全てを学修成果として可視化することにより、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成を目指す。

AP
テーマⅠ
テーマⅡ
複合型

APによる進展	26年度 (実績値)	28年度 (実績値)	31年度 (目標値)
AL受講学生割合	99.5%	100%	100%
AL実施科目割合	27.3%	100%	100%
実践技術単位拡張割合	20.0%	100%	100%
授業外学修時間	8時間	16時間	22時間



高専教育全体の学修成果の可視化



教員目線と学生目線でアクティブ・ラーニングを高専の全教育活動に展開し、学修成果を見る化する

実践技術単位制度による教育成果全体の見える化